

## 開拓農家標準設計の作成について

上原三郎

(福岡県農業試験場)

福岡県には2,234戸(218組合)の開拓農家がある。そのうち今後農業経営で生計を立てうる見込のある農家はその6割程度であろうといわれる。それら専業農家の営農形態はさまざまであるが、主要な類型は常緑果樹、落葉果樹、そさい、酪農、水田養畜などである。

農林省は開拓審議会の答申に基いて38年度より第2次開拓営農振興計画を立てることとなり、本県においても開拓農家実態調査(全農家)、標準農家経営調査(5類型25戸)、標準設計の作成、テスト地区の戸別農家の設計作成など一連の作業が進められている。わが経営改善研究室では県農地開拓課の要請に応じて、標準農家経営調査と標準設計の作成の作業に参加したので特に標準設計の作成に当って得ることの出来た体験の一端を申し上げたい。

標準設計の作成は本県では上記の5類型について行つたが、前に行つた標準農家の経営調査(25戸)の結果は設計をこれから適用する現実の開拓地との距離を教えて呉れたし、また設計のための多くの素材を提供してくれた。もちろん設計のためにはこの他に多くの資料を必要としたが、標準設計作成の約束として本県では農業所得30.5万円を少し上まわる水準を目標にして、それぞれの営農類型毎に経営土地規模と労力(2.0)を与えられた条件とし、現状の20万円前後から30.5万円に到達するにはどのような作目をどのように組合わせてどのような技術体系をとるか、設備、農機具はどうするか、どのような土地利用方式をとるか、家畜は何頭飼うか、それをどんな方法で増やすかなどを決めていくわけである。もちろん一回でうまくいくものではない、いろいろ見当をつけて試算を試み

るわけである。経営研究者は経営を総合的に取上げるわけではあるが、経営は個別技術の組合わされたものでもあるのだから、技術のことは各専門技術者の意見に従わねばならない。しかし技術者は反対に経営の総合的な内容あるいは経営の諸条件が示されなければ技術体系をかんとんに組立てるわけにはいかない。条件が変われば技術体系も変形しなければならない。こうして経営担当者と技術者がお互い協力し合わなければこの仕事はうまく出来ないものだとすることを痛感した次第である。兎に角農地開拓課の係りの熱心さに動かされてどうにか責任を果たすことが出来た。

アメリカの普及事業では経営設計(Farm Planning)は各州で熱心に行われているときいている。代替計画、試算などいろいろの方式が考案され普及員は農家と一緒に農場経営の改善の設計を立てるといことである。今回開拓地の指導事業の中で開拓農家のための早くから設計作成の事業が重視されまた実行されていたことを知つて不勉強を恥じた次第であるが、われわれ経営研究者のこの分野での準備体制は大へん貧弱であることを白状せざるを得なかつた。今後、経営設計作成の仕事に対する注文は開拓課からばかりでなくあちこちから殺到することであろう。注文があつて在庫品がございませんでは店の信用にかかわることになる。家内手工業で少しばかりの経営調査事例を生産した位では間に合わない。各県農試で生産したものをお互いに流通し合い共有の商品として利用するならば兎角さびれ勝ちの経営研究室にも客がつくようになりはしないだろうか、またこの仕事は技術者の助けを得なければ出来ない仕事であるので身近かに多くの相談相手をもっていることは大へん好都合でもある。